

ひつじ雲 第三回

「奮戦中―孫につなぐ」

「晴雨計」の最後に「人間は親から子・孫へと繋がりが生かされている」、だから「これからは、孫に出来るだけ繋いでゆこう」と書いた。その後この作業は比較的順調にいつている。8月幼稚園の誕生会で「将来チェリストになりたい」と言って母親を喜ばせた孫だが、自己紹介メモには「好きな遊び」に「お家ごっこ」とあった。これは私と二人でやるオリジナルの遊びだ。部屋にあるクッションなどで好きな間仕切りをし、「今日は本屋さん」など決めて勝手にストーリー展開をして遊ぶ。最近ではストーリーは殆ど孫任せ。子供の想像力の豊かさには驚かされる。一番多いのは二人での

「お絵かき」だ。動物、魚、昆虫のほか恐竜も好きだ。私の知り合いの絵本画家松岡達英さん（長岡）の「アマガエル」シリーズも大好きだ。松岡さんのシヨップに一度連れて行ったが、それからはもう友達気分だ。絵を描く時線に全く迷いが無いのには驚く。頭の中に絵は浮かんでいようだ。こっちは「オーパ、ダンゴ虫描いて」と指示されたものを描く。何時間も集中して描いているところを見ると、絵が好きで私とつながったように感じる。歌も好きだ。遊びながらいつも歌う。繋がっているかなと思うのは替え歌が好きなこと。聴いていると勝手に歌詞を替えて歌っている。「トノボのメガネは真っ黒メガネ夜のお空を飛んだから…」には感心した。今一番の二人のヒット曲は「線路は続くよ」だ。汽車ゴッコをしていてふと思いで歌ったなら、気に入ったようだ。

そうした中ふと気がついたら、孫に繋ぐのに色々教えている積りが、実は教わっている。5歳になったばかりの孫は質問王だ。毎日質問攻めだ。ティラノサウルスより強い恐竜は？トリケラトプスは肉食か？ヒラメとカレイの違いは？イルカとシャチはどちらが賢いか？など次々と聞かれる。マンボウが他の魚の病気を治すので「海の病院船」と言われているのも質問から学んだ。そのマンボウが一回に卵を3億個も産むのに成魚になるのは2〜3匹で、後はアジやイワシなどの餌になるのには驚いた。そのマンボウの主食はクラゲ、そのお蔭で人間は海水浴が出来る。自然界の生態系は本当に良く出来ていると感心させられる。でもそれは今や崩壊の危機に晒されている。動物は必要な分しか狩りをしないが、人間は儲かれば無くなるまで略奪するからだ。孫から教わることは

本当に多い。

繋ぐと言えば、安倍政権が突如崩壊したが、菅政権に引き継がれた。私は「アベノミクス始め引き継がない方が良いもの一杯あるのに…」と思いつながら「これからは孫には繋ぐものとそうでないものを見分けなくては」と思った。

(令和2年9月25日)

